

2級建築士 H29設計製図の課題に関する所見

【H29設計製図課題】

家族のライフステージの変化に対応できる三世代住宅（木造2階建て）

要求図書については、1階平面図兼配置図、2階平面図、立面図、断面図、2階床伏図兼1階小屋伏図、部分詳細図（断面）、面積表、仕上表及び計画の要点等とする。

なお、外壁の仕上げについては、試験問題において指定した仕様により行うものとする。

【H29課題の所見】

本課題から読み取れることは、「ライフステージの変化」と「三世代住宅」である（下記参照）。

更に、「外壁の仕上げ」が試験問題において指定された点である（下記参照）。

要求図書の留意点は、H26とH28に指定された「断面図」、「部分詳細図（断面）」、「仕上表」が指定されているので、過去問をしっかりと学習しておく必要がある。また、「計画の要点等」の記述問題とその記述内容と図面との整合性は、合否に大きく影響するので、ある程度、記述問題を予測して、その記述と作図の解答を事前学習しておく必要がある。

(1) ライフステージの変化

設計で求められるライフステージとは、人間の一生（ライフ）における大きな節目（ステージの変化）に対応する建築設計をすることである。ライフステージには次のものがある。

- ① 新婚生活期
- ② 子育て期
- ③ 子供独立期
- ④ 老後生活期

(2) 三世代住宅

三世代とは、親、子、孫の世代のことである。三世代住宅とは、親、子、孫が同居する住宅のことである。

ここで、「(1) ライフステージの変化」も考慮した三世代住宅となると、時間的に変化をどのように取り込むかの難しさがあるが、最終的には、親老夫婦と、子供が結婚して孫がいる子供夫婦孫ありの状況に対しての三世代住宅の設計となる。

この場合、要求室としては、親老夫婦としての生活空間、子供夫婦孫ありの生活空間が、それぞれ分離して、かつ両方を繋ぐ共用部分が求められるものと推定する。

(3) 外壁の仕上げ

従来の出題における外壁の仕上げは、各自が決定するものであった。H29の課題では、「外壁の仕上げについては、試験問題において指定した仕様により行う」となっていることから、普通に解釈すると、試験元から外壁仕様が指定されると判断できる。この点については、どのような外壁が指定され、その断面構成はどうなるか等について、「項目別解説」で別途予測し解説する。

【研究会のH29解説概要】

研究会は、独学者も通学者も活用できる「80%以上ズバリ的中する予測課題」を提供する。

資格学校では、通常、毎週異なるパターンの予測課題が示されて、毎週異なるパターンを作図学習することとなる。この学習法を否定するものではないが、結果的に「何が出題されるの？」という疑問を持つことになる（どれかの予測課題は当たるので資格学校としてのリスクもない）。研究会は、80%以上ズバリ的中を目指して、これが出題されるという「1点予測課題」を示し、その「解答図」を公開する。この提案は非常にリスクがあり、外れるとホームページの存在意義まで失いかねない。しかし、あえてリスクを承知の上、80%以上の的中を目指し、予測課題を取りまとめる。この最大の利点は、1点予測課題がH29試験問題と酷似した場合、短期学習で合格できる点にある。

また、本講座では、「項目別の予測課題の解説」をし、この中で本年度指定された「外壁の仕上げ」と、合否に強く影響する「計画の要点等」などを個別に解説する。予測課題は試験終了後、ズバリの中したか等の検証を行い、その的中%を公開する。

本内容を初めて読まれる方は、「1点予測課題」など不可能に近いと思われる方もいるかもしれない。その方は、是非、1級建築士の無料講座内、「8章 予測課題の解説」の「2015年度 デイサービス付き高齢者集合住宅」と「お客様(A氏)の声」を見て頂きたい。2015年の講座は1点予測課題であり、製図初受験者のA氏は、研究会のみの学習（通学はしなかった）で合格された。2級建築士の製図講座は、今年度が初めてであり断言できないが、1級建築士と同じく、過去問の分析、市販書籍等の分析、それらから導き出される高い的中確率を目指したい。